

黒毛和種去勢牛は肥育前期の濃厚飼料給与量を増やすことで 27 ヲ月齡で出荷可能 である

これまで肥育農家は、市場評価の高い枝肉を目指すため長期の肥育期間を要し、生後 30 ヲ月齡前後での出荷を行っています。出荷月齡を早期化し肥育期間を短縮することは、出荷回転率の向上や飼料コストの低減による経営の安定化に有効ですが、出荷月齡の早期化によって肉質の市場評価の低下が懸念されます。そこで佐賀県畜産試験場では、出荷月齡を通常の約 30 ヲ月齡から 3 ヲ月齡早期化しても、きめ・しまり等に問題が発生せず、「佐賀牛」としての肉質・肉量を維持する飼養管理法の確立に取り組んでいますので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 肥育期間を短縮する肥育期間短縮区（以下期間短縮区）、肥育開始の月齡を早める肥育早期開始区（以下早期開始区）の 2 区を設け、約 27 ヲ月齡での出荷を行い、30 ヲ月齡出荷（以下慣行区）との比較を行いました。
2. 慣行区、期間短縮区は 8 ヲ月齡から肥育を開始、それぞれ 30 ヲ月齡、27 ヲ月齡で出荷を行い、早期開始区は 6 ヲ月齡から肥育を開始、27 ヲ月齡で出荷しました。飼料給与量は、27 ヲ月齡で出荷する場合、約 8~9 ヲ月齡からの濃厚飼料増給量を 1.5kg/月/頭に設定しました。
3. 27 ヲ月齡で出荷した場合、生体重量や日増体量は、30 ヲ月齡出荷と遜色なく、格付成績も 30 ヲ月齡出荷と遜色がありません。また、きめ・しまりによる格落ちはありませんでした。
4. 1 頭当たりの飼料費は肥育期間を短縮することで下がりました。



図1 肥育牛舎の様子



図2 肥育試験の様子

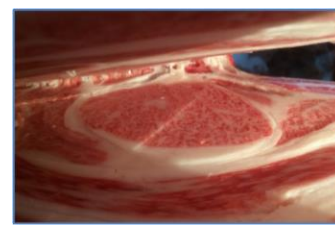


図3 肉質（出荷月齡 26.2 ヲ月齡、BMS No1）

☆活用面での留意点

1. 8~12 ヲ月齡の粗飼料の摂取量が少ない場合、約 14 ヲ月齡以降の濃厚飼料の摂取量が少なくなる場合があります。
2. 詳しくは、佐賀県畜産試験場 大家畜部 大家畜研究担当（TEL 0954-45-2030）にお問い合わせ下さい。